

ライフケアガーデン湘南 特定入居5F

症 例 概 要 入居者：80代 女性 要介護4

入居期間：令和2年12月 ～ 令和3年8月現在

主疾患：糖尿病 直腸潰瘍 左変形性膝関節症

経過：血糖値不安定で入院。入院中に転倒圧迫骨折、膀胱留置カテーテル挿入でベッド上排泄。様々な場面で要介護状態となる。入居後、尿漏れあり1月中旬バルーン抜去。看護・リハビリと連携しトイレ利用開始、更に移乗動作が自立になる。ご主人のショートステイ利用や様々な企画で職員や他の入居者さんと関わり、日常生活を徐々に取り戻し、ADL・QOL共に向上した事例

内 容

ご入居前、入院先で転倒。第一腰椎圧迫骨折コルセット保存加療。疼痛による体動困難で膀胱留置カテーテル挿入、ベッド上排泄の状態。左変形性膝関節症の疼痛や入院生活によるADL低下があり、移動、ベッド車椅子間の移乗、排泄の場面で介助を要する状態でした。

ご入居後、緊張が強く介護職員に対して「ごめんね」「ありがとね」と、とても気を遣われているご様子があり、ハルンバックに対して「恥ずかしいから」と話され居室で過ごす事が多く閉じこもりがちな状態でした。

入居1ヶ月、バルーンカテーテルからオムツへ尿漏れが増加、検討し1月中旬に膀胱留置カテーテル抜去となりました。トイレ利用に関しては、「怖い」「不安」と話があり、オムツでの排泄が続きご本人の気持ちを伺いながら徐々にADL・QOL向上を進めていく事としました。

入居2ヶ月、看護・リハビリと連携し毎食前と就寝前のトイレ誘導開始。「職員が近くに居ると安心します」とご本人が話された事から排泄時はスタッフが付き添う事を徹底。失禁は徐々に減少し、入居3ヶ月が経った3月には尿便意が確実に失禁はなくなりました。夜間は睡眠を優先したいとのご希望でオムツを利用していますが、リハビリやトイレ利用を積極的にする事で生活場面での立ち座り動作が増加し、明らかに筋力増加が分かりました。

入居4か月には、更に可能な生活動作の検討を続けた結果4月上旬にベッド車椅子間の移乗動作が自立。今では食事イベントの際には事前に医師・看護師と連携・確認し様々な食事(お寿司・パンバイキング等)を楽しまれています。

ADL・QOLの向上により、自信を持って他の入居者さんや職員との関わりやイベントでも笑顔が多く

楽しんでいる時間が増えていきました。4月、5月、7月にご主人のショートステイ利用があり、1階レストランで談笑し過ごす事ができ、ご家族にご安心いただくことができました。ご本人からも、当ホームに来てとても良かったとスタッフに言葉をいただき嬉しい限りです。

今後も看護・リハビリなど多職種が連携しワンチームとなり入居者さんをサポートする事で、その人らしい生活をケアし、キラッとほほ笑んでいただけるよう笑顔を引き出すケアに努めていきたいと思えます。